

2010年8月28日

2010年度 日本軍縮学会研究大会  
部会2「軍縮研究のフロンティア」  
報告レジュメ

## 「日米韓による政策調整グループ (TCOG) の再評価」

西舘崇

東京大学大学院客員共同研究員

([tnishita@js8.so-net.ne.jp](mailto:tnishita@js8.so-net.ne.jp))

1. はじめに
  - (1) 問題の所在
    - ・ TCOG に対する従来の評価
    - ・ 「協調問題」としての日米韓による協力関係
  - (2) 研究の目的と主張
    - ・ 目的：日米韓の協力関係構築における TCOG の再評価
    - 主張①：TCOG に対する従来の評価→部分的でかつ不十分
    - 主張②：「熟慮の制度 (deliberative institutions)」としての TCOG
  - (3) 分析方法
    - ・ TCOG 設立以前、以後の協力関係の比較検討
    - (本研究では 1990 年代後半から 2000 年までに時期を限定する)
2. TCOG の概観
  - (1) 設立の経緯
    - ・ クリントン政権による対北朝鮮政策の見直し
    - ・ 林-ペリー会談
  - (2) 設立の目的
    - ・ 日米韓による対北朝鮮政策の調整
  - (3) 開催概要 (開催回数、協議形式、参加者等について)
3. TCOG に対する先行研究
  - (1) Schoff (2005)
    - ・ 第三の足としての日韓協力の推進
    - ・ TCOG メカニズムの拡張と応用

- (2) Ehrhardt (2004/2005)
  - ・米韓の協力関係における TCOG の位置付け
- (3) Jo & Mo (2010)
  - ・日米韓による三カ国主義 (trilateralism) 全体からの TCOG の位置付け

#### 4. TCOG 設立以前における協調問題とその背景的要素

- (1) 協調問題の諸相
  - ・「軽水炉提供問題」
  - ・「潜水艦侵入事件への対応」
  - ・「テポドン発射問題への対応」
- (2) 協調問題の背景的要素
  - ・北朝鮮／北朝鮮問題に対する捉え方
  - ・日米韓のそれぞれに対するそれぞれの捉え方

#### 5. TCOG における政策調整とその要素

- (1) TCOG における政策調整
  - ・ペリープロセスの調整と確認
  - ・北朝鮮との各二国間政策における情報と認識の共有と調整
- (2) 調整された各国の対北朝鮮政策の実施
  - ・日本：村山訪朝団による訪朝
  - ・韓国：南北首脳会談の開催
  - ・米国：趙明禄訪米、オルブライト訪朝
- (3) 協力的な政策調整の要素
  - ・対等な立場による協議形式
  - ・政府高官による直接の協議の機会（本会議及び廊下会合）
  - ・情報と認識の共有

#### 6. 結論

- (1) 研究のまとめ
  - ・従来の評価と本研究の評価の相違点
  - ・TCOG における政策調整の二つの側面
    - ・具体的な政策の調整と確認
    - ・政策の調整に必要な情報の共有と認識の共有
- (2) 課題
  - ・協力の推進における TCOG 以外の要素への注目

- ・ 2001 年以降から 2003 年までの分析（あるいは 2005 年まで）の必要性
- ・ TCOG に対する制度論的解釈のあり方

(3) 本研究の今日的意義

- ・ 高まる協調問題への注目と TCOG 的な制度的枠組みの重要性
- ・ 調整すべき対象としての「利害に対する捉え方」

[主要参考文献一覧]

- Cossa, Ralph A. (ed.) (1999) *U.S.-Korea-Japan Relations: Building Toward a "Virtual Alliance"* Washington D.C.: CSIS.
- Ehrhardt, George (2004/2005) "The Evolution of US-ROK Security Consultation," *Pacific Affairs*, Vol.77, No.4, 665-682.
- Hall, Peter A. and David Soskice (eds.) (2001) *Varieties of Capitalism: Institutional Foundations of Comparative Advantage*, New York: Oxford University Press, 2001.
- Jo, Hyeran & Jongryn Mo (2010) "Does the United States Need a New East Asian Anchor? The Case for U.S.-Japan-Korea Trilateralism," *Asia Policy*, No.9, 67-99.
- McDevitt, Michael A. (2004) "The Current State and Future Prospects for Trilateral Security Cooperation," in Kim, Tae-hyo and Brad Glosserman (eds.) , *The Future of U.S.-Korea-Japan Relations: Balancing Values and Interests*, Washington, D.C.: The CSIS Press, 17-30.
- Oberdorfer, Don (1997) *The Two Koreas*, New York: Basic Books. [=菱木一美訳 (2002) 『二つのコリア[特別最新版]: 国際政治の中の朝鮮半島』共同通信社。]
- Park, John S. (2005) "Inside Multilateralism: The Six-Party Talks," *The Washington Quarterly*, 75-91.
- Perry, William J. (1999) *Review of United States Policy Toward North Korea: Findings and Recommendations*, Office of the North Korea Policy Coordinator, United States Department of State, October 12.
- Schoff, James L. (2005) *Tools for Trilateralism*, Washington D.C.: Potomac Books Inc.
- Wit, Joel S., Daniel B. Poneman and Robert L. Gallucci (2004) *Going Critical: The First North Korean Nuclear Crisis*, Washington D.C.: Brookings Institution Press.
- 伊豆見元 (2002) 「日米韓三国間協調の現状と課題」『東亜』No.419、5月号、60-67。
- 林東源著、波佐場清訳 (2008) 『南北首脳会談への道—林東源回顧録』岩波書店。
- 小此木政夫編 (2004) 『危機の朝鮮半島』慶応義塾大学出版会。
- キノネス、ケネス、伊豆見元監、山岡邦彦・山口瑞彦訳 (2003) 『北朝鮮 II : 核の秘密都市 寧辺を往く』中央公論新社。
- (2000) 『北朝鮮 : 米務省担当官の交渉秘録』中央公論新社。
- 木宮正史 (2005) 「金大中政権による対北朝鮮包容政策の起源・展開・帰結」五十嵐武士編 『太平洋世界の国際関係』彩流社、169-205。
- 倉田秀也 (1999) 「北朝鮮の弾道ミサイル脅威と日米韓関係—新たな地域安保の文脈」『国際問題』No.468、52-67。
- 春原剛 (2004) 『米朝対立 : 核危機の十年』日本経済新聞社。
- 西舘崇 (2010) 『1990年代の朝鮮半島における日米韓の安全保障協力の条件—両性の闘いからの分析—』東京大学大学院新領域創成科学研究科国際協力学専攻 (学位論文)。